資料７

子育て支援・少子化対策ミーティングでの主な意見

第１回（H26.8.23 砺波会場）

子育て支援・子どもの育成

・子育て家庭の育児に対する不安感や負担感は大きく、保育園等に寄せられるニーズは増大、多様化している。地域全体での子育て支援が必要。
・子どもの養育費の負担が大きく、兄弟を増やしたくても踏み切れない。
・市町村の保育料軽減について、より一層の支援をお願いしたい。
・保育料以外にも経済的負担はあるので、節目節目での支援を考えて欲しい。

仕事と子育ての両立支援

・育児休業が思うように取れず、仕事を辞めたり、保育所の入所をあきらめたりしたという声をよく聞く。
・中小企業では、育児休業を取得しづらい雰囲気がある。
・育児休業取得に対する理解が社会全体に広がればいい。
・小規模企業では、社員が産休・育休を取得すると、代替職員を確保することが難しく、大きな問題。富山県独自の支援策や小規模企業に限定した支援策が必要。
・小規模企業が一般事業主行動計画を策定するには、かなりの負担感がある。策定した場合の具体的なメリットが必要。
・必要な期間の育児休業が取得できるよう、企業に対する啓発や支援制度の充実が必要。

少子化対策・人口減少対策

・キャリア教育と同じように、学校教育の中で、ライフプランを考えることが重要。
・安全・安心な妊娠・出産時期を若いうちからきちんと理解しておくことが大事。
・家族や友人、地域との関わりの中で、家族を持つことや子どものいる暮らしを考える機会の提供が必要。
・将来に夢が持てず、なかなか結婚に踏み出せない若者が多いので、結婚に対して夢と希望が持てるよう、県全体で「おせっかい」していくことが必要。
・県が主体となって、男女の出会いのための様々なイベント等を計画してほしい。
・若いころから地元の大学や企業の魅力を知ってもらうことが大事。
・学生が希望を持って働けるような魅力的な職場の確保や、地元で就職を希望する若者への就職支援により力を入れてほしい。
・県内への定住を促進するには、新たな雇用を生み出す企業の誘致や中途採用の促進等が必要。

第２回（H26.10.11 魚津会場）

子育て支援・子どもの育成

・身近な保育園が支援事業を拡充し、受け入れスペースの設置、専任の育児支援アドバイザーの配置などを行えば、子育て支援の強化につながると思う。
・放課後児童クラブの指導員が不足し、確保が困難となっているので、指導員の確保について支援をお願いしたい。

仕事と子育ての両立支援

・育児休業の延長や短時間勤務などを取り入れる企業は年々増加しているが、大企業と中小企業では取りやすさに温度差がある。実際に活用するために、会社の体制や環境づくりが大切。
・受入れ側の事情で、学童保育を断られるというケースを耳にした。仕事と子育ての両立のため、学童保育は非常に有難い施設なので、そのようなことがないよう、支援をお願いしたい。
・小規模な企業においては、一般事業主行動計画の策定に多くの課題があるため、行動計画策定のきめ細かな支援を行ってもらいたい。

少子化対策・人口減少対策

・大都市圏から観光客を呼び込むだけでは人口減少対策とはならず、いかに現役世代の定住化を図っていくかが重要。
・後継者不足を課題としている中小の商工業者と、大都市から起業を目指す方とのマッチングや、地元の商工業者の雇用を拡大するような施策が必要。
・定住促進のため、子どものころから地域の魅力を知る機会を増やすことや、地域で頑張る魅力的な人とつながる機会を増やす、地域で子どもを育てる交流事業が大事。
・定住・移住を促進し、魅力的な地域づくりを進めるには、意欲のある方々のネットワークを広げて、移住者受け入れの環境づくりとまちづくりを進めることが大事。
・首都圏においても、富山ファンの方々のネットワークを更に広げて、富山の地域の方々とつなぐことも大事。
・子どもを増やすためには、男性の子育てに対する理解や協力が非常に大切。夫の理解があると、女性も子どもを産もうかなという気持ちなる。
・男性に、もっと子育ての大変さを理解してもらえるような環境づくりが大事。

第３回（H26.11.24 高岡会場）

子育て支援・子どもの育成

・保育園に中途入所をお願いしてもなかなか入れないという状況が多いので、半年に一度入所できるような体制を作ってもらいたい。
・学校行事の振替の日や、夏休みの時期に子どもを預かってくれる、一時的な学童保育施設のようなところを設置してもらいたい。
・児童クラブ組織では、放課後児童クラブからの活動支援の依頼が増加傾向にある。行政には、児童クラブ組織の支援協力について放課後児童クラブやイベントの関係者に周知してもらいたい。
・子どもの数が減少し、学校での部活動が成り立たなくなってきているので、支援をお願いしたい。また、運動部だけでなく、文化部への支援も検討してもらいたい。

仕事と子育ての両立支援

・仕事と子育てを上手く両立させるには、職場環境の整備、夫の意識改革、子供の預け先の充実等がバランス良く機能して初めて結果が出る。
・子供の急病時に、急な欠勤や早退をせざるを得ないことがよくある。それを少しでも改善するには、病気の子を預かってくれる施設の増加が不可欠。
・富山県では、女性が働くという選択肢を選べても、質については選べていないのが現状ではないかと思うので、その点の改善をお願いしたい。

少子化対策・人口減少対策

・核家族化が進み、乳幼児と接する体験を持たないまま親になり、自らの子育てに困難を感じる若い世代が増えているので、ジュニア世代から乳幼児に接し、子育てを体験するなどの教育が必要。
・子ども達が将来自立した大人として、家庭を築き子どもを育てていくためには自分が家庭を持つことや、子どもを持つことなどを含めたライフプランを若いうちに考えてみる機会を作ることが大切。
・子育て世代が祖父母と同居したり、近所に家を建てる場合などに、助成する制度を検討するなど、三世代同居を推進してもらいたい。
・基本計画の中に、少子化をどのくらい解消しようとしているのか、目安となる数値目標を入れられたら分かりやすいものになると思う。
・移住に活用できる空き家が少ないことや、地域での移住者の受入体制が整っていないところが見受けられるので、県として対策を講じてほしい。
・移住者を増加させるためには、まちづくりに携わる県内外の方々とのネットワークづくりが必要なので、支援をお願いしたい。

第４回（H27.1.12 富山会場）

子育て支援・子どもの育成

・放課後児童クラブは、16 時までしか利用できないところもあるが、小学校低学年くらいまでは、19 時くらいまで子どもが安心して過ごせる場が必要。
・放課後児童クラブは 10 歳未満と設定されていることが多いが、6 年生まで受け入れるなど、柔軟な体制が必要。
・子ども達や母親が安心して楽しく過ごせる地域づくりのため、元気な高齢者に、自身の子育てや孫育ての経験を踏まえて、子育て支援に積極的に参加してもらいたい。
・母子家庭での子どもの貧困率は 66%にも上る。そのような家庭の子も、充分な教育を受け、ちゃんと働くことができれば、社会に貢献できる人材に育つので、母子家庭への支援について検討してもらいたい。
・ファミリーサポートの仕事をしているが、利用者は金銭的に恵まれた人が多いので、金銭的に恵まれない人たちも利用できるよう、支援をお願いしたい。

仕事と子育ての両立支援

・男性の育児参画を促進するためには、短時間勤務制度の導入が有効だが、県独自に短時間勤務を進める事業所に対する税の優遇などを検討してもらいたい。
・各企業や団体においても、父親が子育てに参加しやすいような雰囲気、環境づくり進めてもらいたい。

少子化対策・人口減少対策

・とやまマリッジサポートセンターの会員登録数を増やすためには、まず、その存在を知ってもらうことが重要であり、積極的なＰＲに努めてもらいたい。
・色んな団体でお見合いイベントなどを実施しているが、そのような団体への支援を引き続き実施してもらいたい。
・若者の県外流出を抑制するため、県内の高等教育機関を増加させる必要がある。
・あまり勉強が好きではない子どもには、高校に進学せず、就労することによってその力を活かすことが考えられるが、そのためには受入企業に対する支援も必要。
・高校の職業科で、徹底的に実務的なことを教える教育をしてもらいたい。
・Ｕターン就職をさらに促進するためには、Ｕターン情報センターの体制強化や、首都圏での合同企業説明会の開催、県内での合同企業説明会に県外学生が参加しやすくするための支援も必要ではないか。
・東京から富山県に移住し、快適で充実した日々を送っているが、地方での暮らしを誤解している人も多いと思う。そこで、実際に生活している人の生の声や、移住者の声が聞けるような機会が増えればいいと思う。
・三世代同居については問題もあると思うが、良い点も沢山あるので、三世代同居の支援やＰＲ、住宅支援なども必要ではないか。
・不妊治療は、女性だけでなく、男性の問題でもあることを啓発してもらいたい。